

LIEF(リーフ)病院図書館管理システム

Librarian's Information Exquisite Flow

森 喜代志

株式会社ベルブック

まず考えたことは使い易いシステムを廉価版で作成するという事である。

使い易いシステムとはどんなシステムだろうか？

まず浮ぶのはユーザー・フレンドリィで分かり易い画面であって簡単に操作できることだ。

だが反面、一見使い易そうな画面があっても、業務に必要な機能が不足しては役に立たない。また逆に極めて多機能で、業務の必要以上の機能を備えているが使いたい機能にすぐにたどりつけないといったことでも困るだろう。ここで真の使い易いシステムとは以下のことを満たすシステムといえる。

1. 業務に必要な機能が過不足なく実現されている。
2. 想定される利用者に対して、適切なユーザー・インターフェースが用意されている。
3. 上記を満たす為のシステム的な仕組みが用意されている。

図書館業務に必要な機能を過不足なく実現といっても、これを実現することはなかなか難しい。実際のシステム開発では、機能が足りないことを恐れて「あれば便利かもしれない機能」を作ってしまうがちである。

ここで本システムのユーザーは2種類のユーザーを想定した。

- 1 図書館司書の方々、 Librarian
- 2 図書館利用者の方々 Visitor

使用目的の違うユーザーに合ったシステムを作成することを先ず優先して考えた。

単行書/雑誌の管理にはバーコード・スキャナを使っている。 IC タグも引合いに出たがコストパフォーマンスの点から今回はバーコードを使用した。

各々の図書室/館でいままで作成している Database は種々あるが、データベースは現在 EXCEL / ACCESS / FileMaker / SQL で作成された物であれば変換可能である。 OS は Windows XP, 2000, 2003 で稼動する。尚、Windows Vista での検証はまだ行っていない。メモリーは検索時間に影響するので多い方が望ましい。
